龍王太郎英雄
譚初編全四冊

へ13
3699
1

龍王太郎

初編上

門へ13
號3699
巻1

龍王太郎英雄譚

初編 全四冊

式亭小三馬作
香蝶樓豊國画

弘化三年丙午
孟春新彫稗史

藤岡屋慶次郎
上梓

妖婦桂

和田津三郎正氏

綾羅錦繡を身ふ粧へハ醜婦の醫ゆもとある人あり襤褸の衣を身ふ
とゝ人ぐ用妓も不售支あり容顔よく衣裝もよゝ紀女ゝ則世ふ名さ防ぎ
先生の巧妙ゆそ精工完備の袋入且優長ゝ姑くあて五ふ[illegible]
をつゝぐ氏ふ乎波ゝぐ向ふ不見書著せゝ草子ゆも彫刷裝釘
念をゝれ形容を小町の美本ふ製れたゞ[illegible]やら面白さ[illegible]新奇妙案
殊更ふ魂膽つくゝて書れ[illegible]も利を射ゝ書舗が早い[illegible]を專一脫字ゆ筆誤
もかけもかまゝぐ開市せゝ形容ゝ醜き無鹽君の心ふ賢き作意ハ[illegible]
茲ふ目のつく藤岡屋ゝ一番今年ハ浮費で下手ゝ上手ふ[illegible]虛ち
ゝいそゝ本町と秀句交の注文を得ゝ[illegible]勵も机上ふ筆の鞭人の尻
馬先刻美知の幕の内明てゝ[illegible]作者の戲房院本ふ雜劇の脚本
漢と倭の奇談怪說名文佳話を撰取て何ぞも三十八文字屋加之ふ十九
文盲短文彼醜婦ふ美服ゆそ馬士ゆも意匠のそぐ[illegible]句續返向の前後
氣ふゝて校正ふ嬶子育余國ゆゝ[illegible]天江戸の手ゝ始の花娘春待顏ふ作り[illegible]

弘化三年丙午春新版　本町庵主式亭小三馬戲題

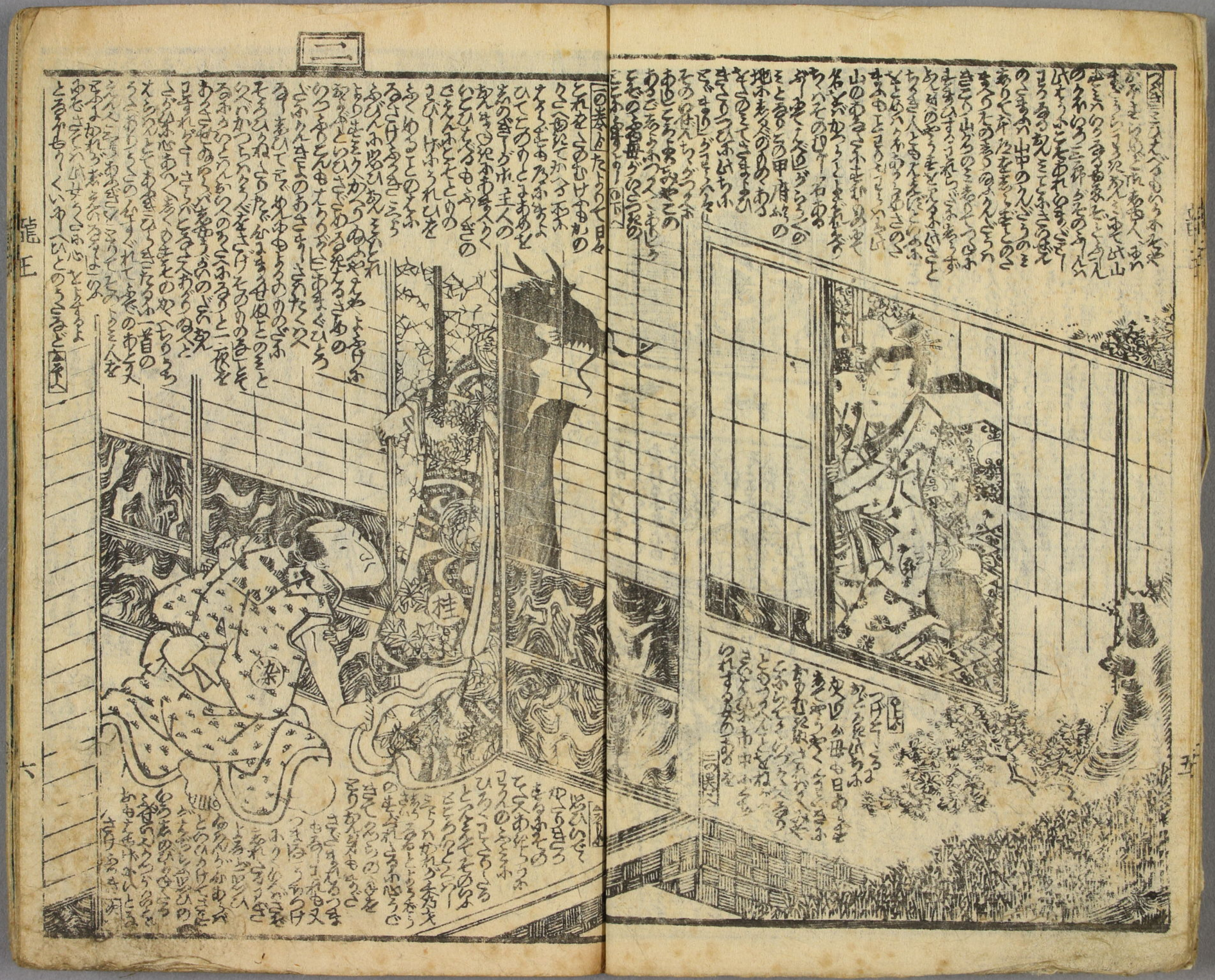
蘭の家来　南藏

郷士蘭貞右衛門　女兒　阿梅

婢女　於北

和田津
龍九郎辰
神怪百頭無雙兒と存し成長て石
七雄と從へ乱臣賊子を亡し大功を顕し
名誉を傳へ智仁勇兼備の英雄人
皆その威德に伏し自ら龍王太郎の尊称あり

桂



五吾妻香
龍王

龍
虎
金勢丸 代百文
仙傳人参即効油
奇薬 代百文
代五十文
代五十文
代百文
代百文

嘉永四辛亥歳正月新刻目録

龍王太郎英雄譚 九編 十編 十一編 式亭小三馬作 一陽齋豊國画

花白梅春風 小三馬作 國輝画

茶案武者鏡 種員作 國政画

敵討栗迦伊賀越 初編ヨリ五編マテ 一華文子士英壽作 一雄齋國輝画

東錦繪地本御通油問屋 藤岡屋慶次郎

龍王太郎初篇

分和尚の義の出生
その湖に住む大蛇
處女に縁ふその名を
あさこの桂男
三郎正氏が惡逸の金偽
龍女の戀慕ふ
相模の生類る一世の寄像
夫い和田津竜太郎が
出生の記原
是遠作者ハ式亭
小三馬

龍王
太郎
後編

あまさぐる鄙とのの出生
その大和田の歴世郷士
郡主の勝るその名を
いろ〳〵大人
竹春屋の門弟ぐ義男の知傳
古主の仁智ふ
量ぐ従ふ世の美後
是ハ大蛇虎松が
出身の事蹟
是遠画工の香錦楼
丙午春
藤慶版
豊国

つゞき
をとりよろ
こびてひごろより
人まとえもやよ
ふりきこえ七夕どの
てきちうしきり思けて
ふりくのかりれのさまを
ゐるんさりろぶりうん
四く人をてゐ縁とものお
あく者うの人のぎを
ちりしあいせんゆもたまこい
あるよあれねばせんをべーし
かこをれいのりてこうぞのと
めんをこのどあれうーと
たゞそれのこれ心をもゞね
をりくれ四七夕ぐ四く人をさゞうき
ゐくこ夕夕ぐ四く人をさゞうき
ゐ一月を考づがあをやゐあるる
うちゐつ四ゐゐん男子を
きりけ小七夕とるづけこ一
丈や七夕ゐりをのちまハこのれど
女子をきりけあちんのようこべ
をれくこるるこにしくゐかるるもうきも
ちこ一ハ考くこてちあてさらこやゐう
ゐもよ一こひけるあり日七のちまゞりきる
どこいゞをるこをそうゐゐんゞりんあんそと
これりくてこるかうゐくゐあれゞるゐ
ゞちんもりてきりこいくゞさすゞれ
きりをるりちのこゞ考り生の

かひすめどるれとをこゞをれ
小七夕ゐめゐりをこてゐんをゐ
ここゐをきりうのせゐれきりひゐりをハ
ゐゞて考きりうんゐりをれ
ときりのてそのゐまこれりとこり
ねゞくとこりるゐりきこんもーれも
ゐくゞるをゐてハゞこれそくれすめ
くハ世ゐれゞこ考ゐのさくんを
ををこれのこゐんとも
をりのさををさりきゞ
うゞるハけれゞ
さここりやきりふ
うりりるハこれ
あゐ
ひゐ
ゐす
ゐハ
ひを
すて
ゐろ
ゐゞの
さけ
ゐこりけ
ゐる
とゐこ
ゐるれ
ゐんゐ
つゐ考ゐ
ゐんゐう

富士
駿河

左馬
左方

駒
山花

藏
○式亭三世作
婦人
大包 百文
小包 五十文
市町
三馬作

左馬
駒
山花

虎
龍

天女丸代百五文
三馬製

雷
龍

小三馬作
豊國画

嘉永四辛亥春新刻目録

七草四郎
菅業嬢子 ちゑぬひ譚 四編 五編 六編 七編 柳下亭種員作 一陽齋豊國画

繪本川中軍鑑 初編 玉蘭齋 擇 五編 五雲亭貞秀画

名取草双蝶々 前編 柳下亭種員作 後編 一陽齋豊國画

牡丹園女子莊子 二編 三編 四編 笠亭仙果作 一雄齋國輝画

地本錦繪卸店 通油町 藤岡屋慶次郎梓